

平成 30 年度 学校関係者評価委員会 議事録（1 回目）

実施日：平成 30 年 6 月 26 日（火）10：00～12：00

場 所：学校法人 愛知理容学園 アリアーレビューティナー専門学校 2 階 A 教室

出席者：委員 池山英一（アリアーレビューティナー専門学校 校長）  
川野公稔（指吸会計センター(株) 名古屋支店 支店長）  
近藤文峰（第一学院高等学校 教諭）  
山田資喜（愛知県美容業生活衛生同業組合 常務理事）  
廣瀬麻美（理容ヒロセ・平成 26 年度卒業生）  
藤原さやか（平成 28 年度卒業生）  
尾関之一（ベリーバイヘアスポットオゼキ経営）  
市川千恵子（PTA 役員）

順不同

欠席者：委員 福澤寿和（愛知県理容生活衛生同業組合 理事長）  
中川信子（名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院 校長）  
平成 30 年 5 月 21 日（月）にアリアーレビューティナー専門学校にて  
意見等を聴取し会議に報告する。

オブザーバー

森山郁子（アリアーレビューティナー専門学校 事務主任）  
山口 孝（アリアーレビューティナー専門学校 広報主任）

委員会次第（概要）

- （1）開会
- （2）学校長挨拶
- （3）第 10 回全国理容美容学生技術大会 東海地区大会の告知
- （4）平成 30 年度夏期 学園広報誌の説明
- （5）平成 29 年度自己評価の報告
- （6）平成 29 年度学校関係者評価委員による評価まとめ
- （7）その他意見交換

各評価委員から、自己点検・評価報告に対する質疑、ご意見やご指導を頂いた。  
（詳細は後記のとおり）

- （8）閉会

終わりに、校長から平成 30 年度は第 2 回目を平成 30 年 12 月に行う予定である

旨の報告。また校長より各委員へ貴重なご意見に対するお礼の挨拶。

質疑・討議及び意見交換について

次第に関する質疑を含め、当校に対しての要望、意見等を含め、次のような貴重なご意見を頂いた。

[各評価委員からの質疑・ご意見等及び当校からの回答] (順不同)

○山田資喜 委員

本年度に定めた重点目標の国家試験において合格率が全国平均を下回ったと報告があったが、原因は何だとお考えですか?日々の授業風景はどうなのか?中部美容では「学校運営担当理事」(校長以外)が授業確認をしている。先生方はやりにくいと思うが「あの先生、生徒一人に対する話が長いよね」等気付いたことは伝え、後日改善報告がある。評価項目(1)に関して、「即戦力」という言葉があるが、学校側としての見解・認識がじっくりこないようです。学校で学んだことが現場で生かされない。以前からの課題で現場との乖離は難しい問題でサロン側の学校に対する考え方も以前のインターン制とは違うことを理解しないといけないと思う。サロンでの覚え直しが必要。(8)の財務関係で理事会での審議対象が不明瞭との事ですが、中部美容では10万円までは校長決済でそれ以上は理事会審議。予算編成も実務に近い形で行っており、ブレは少ない。理事会も以前は2か月に1回でしたが、今は毎月行っている。(6)の教育環境においては、4月より新校舎がオープンし、4階に多目的ホールがあり、図書も整備され学生が活用している。4階以上の階層に実習室や各教室がある。(7)学生募集ですが、芸能人を使つての体験入学は役員・理事からの動きで行っています。ただ、どの芸能人を呼ぶか等は教職員の意見を聞いています。日本理容美容教育センター「リビッツステーション」の利用率ですが、岡崎校の利用率が高いのは山本理事長・校長の強い意向です。きちんと説明の場を設けています。校長先生の力量ですね。

(学校側): 国家試験に関して美容科では、24名受験し7名が不合格(実技4名、学科3名)、理容科は19名受験し2名が不合格(学科2名)でした。美容科は2年連続全国平均を下回っております。3年前の27年3月卒業生は理容科・美容科ともに100%(両科で45名受験)の合格率で、できていたことができなくなっている。理容科・美容科とも責任者は現在、国家試験監督員も勤めるベテランです。またご存じのように、敢えていえば実技より学科で落ちる場合が弊校としても、また全国的な傾向なのですが、今回は学科より実技の方で不合格者を多く出してしまうました。40歳を超えた方や外国人受験者がいたとはいえ、反省しております。できない学生ばかりに目が行ってしまい、想定外の者が不合格だったりして、日々の授

業の進め方や学校として物事の優先順位に問題があるのではないかと考えております。養成しようとする人物像について、資格を取るために必要なことと、サロン現場で求められていることは、必ずしも一致している訳ではないと思います。それぞれ別に学ぶこともあると思います。ただ最終的にサロンワークが一番重要であることは言うまでもないありません。「即戦力」の意味をよく考えて参ります。法人運営は2月と5月は寄付行為により必ず開催されますが、他は必要に応じてという感じで定期開催をしておりません。図書室が1階にあるのですが、教室が2階以上のため、利用者が少ないです。昨年の第三者委員会でも指摘されました。

#### ○廣瀬麻美 委員

先般、学生大会に出場する選手のお手伝いに来ましたが、学生大会に出ない学生も練習会に参加していた。学生のやる気を感じた。(3)教育活動の部分で先生の数が少ないということはないのか?足りているのか?先生が教室に上がってこないことが私の時にはあったが。やる気のある先生とやる気の無い先生の差があるように学生時に感じていた。学生大会でも指導教員だけでなく、役員・学科等外部講師も含めてみんなが「入賞するぞ」という気持ちを持ってほしいと思います。また(3)に関し、「マナー習慣づけ」の言葉があるが、インターン等でもバイトとは違う、社会人としてのマナーをサロン現場からも伝えることができるとと思います。

(学校側)：学生大会等の結果に関しては私たちも努力をしておりますが、他校がそれを上回り、残念な結果が続いております。卒業生を含めた全体的な取り組みは初めてであり、進め方の1つの方法だと思っております。国家試験でもそうかもしれませんが、日々の授業カリキュラムからの見直しや準備する姿勢も必要かと思っております。学生大会に限らず、1つの取り組みに全員が関心を持つことは重要であり、大会の応援も今まで以上に声援を送りたいと思っております。

#### ○近藤文峰 委員

評価項目(7)に関して、体験入学の実施回数ほどのくらいですか?また1回の動員人数はどれくらいですか?第一学院では昨年までは、教職員も学校回りをしていましたが、今年からは学校回り専属の方を採用し、訪問してもらっています。本会議の意見等の共有はどのように図られているのですか。

(学校側)：専属の広報担当者はおらず、(囑託で学校回りやガイダンスに出席をしていただいている方は2名)教員・職員の役割プラスその延長線上で学校の魅力創り等をしている状況です。ただ、今年から在校生の出身高校においては教職員で学校訪問をすることにしました。それも仕事の合間を縫ってではなく(遅くなりますし、一

度に多くは回れないので。)適切な時期に適切な学校を効率よく訪問するため、学校を閉めて(生徒休み)一気に全員で訪問しました。(4月27日)体験入学参加者数ですが、平成29年1月～12月は147名で、そのうち高校3年生は53名、出願率は45%でした。どこの学校もそうですが、いかに体験入学に来ていただけるかが大事だと思っています。本会議での教職員の共有は月1回の職員会議(第三水曜日)になると思います。ただ早く議事録を作成して回覧し問題の対処にあてたいと思います。昨年までは職員会議をほとんどしていませんでしたが、今期から50分授業を短縮45分にして学生を帰し、時間をしっかり確保して行っています。

#### ○藤原さやか 委員

評価項目(3)教育活動に関し、インターンの話が出ているが、学校での学びが職業現場に通じているかは卒業生としても正直よくわからない。インターン期間については1期間おける日数は長くなくてもいいが、色々サロンは見たいと思うので、回数はたくさんあってもよいと思う。学校側もインターン先に「こういう経験をさせてほしい」ときちんと伝えるべきで、ただ行かせればよいというものではない。インターンの成果をどこに求めるのか学校がしっかり決めるべきだと思います。

(学校側):30年度は前年度に比べ、期間も回数も増やしています。授業単位としては、「理容総合技術(理容科)」「美容総合技術(美容科)」のなかでインターン(実務実習)をしています。サロン側の受入れ条件として、理容科生徒受入れの場合は届け出美容所の管理理容師、美容科生徒受入れの場合は届け出美容所の管理美容師の写しをいただいております。要するに管理理・美容師がいるサロン様をお願いしております。学生が基本的に理容・美容技術に習熟し状況に応じて応用できる基礎能力を身に付けさせることを目標にしているのですが、学生からの声を聞くと「2日間ドブ掃除をさせられた。」等目的とかけ離れたことをされている旨の声を聞きます。サロン側にはアリアール独自の成績評価票の記入をお願いしていますが、もっと具体的に何を勉強させてほしいのか学校からしっかり伝えるよう改善が必要と思います。マイナスのインターンは本人もそうだが、本人からの声を聞いた後輩たちも以降そのサロンにお世話になることはないと思います。本校の実務実習インターンは理容師・美容師関係法令「理容師・美容師養成施設の教科課程の基準の運用について」に基づき愛知県庁生活衛生課の許可の下、行っています。

#### ○尾関之一 委員

本年度に定めた重点的な項目において、国家試験の結果報告がありましたが、ここまで仕組みができていて合格できないのは、本人に問題もあるのではないかと。インターンシップに関しては、サロンにもよるが忙しい時に来られてもまったく対応できない。

(学校側)：国家試験については、仕組みはあるし、教員も教える内容はよく変更点があるとはいえ、当然わかっている。外部講師を含めて対応を考えないといけないし、教育・指導内容の部分の学生アンケートにおいて、必ずしも良い声があるとは言えない状況です。学校運営全体に言えることですが、運営する上での見方・考え方は職業実践専門課程制度や第三者評価制度を通じてよく分かったと思います。これでもまだわからないと学校関係者が言うようではどうしようもない。基準・観点をしっかり叩き込み、経営していくしか方法はないと思っています。

#### ○市川千恵子 委員

子を持つ親の代表として、評価項目(5)学生支援に関し、就職面接では、何を伝えればいいのかをしっかりと落とし込んでほしい。インターンでは「こういう所で働きたい」と思わせるような内容がいいのではないかと。子どもがインターンから帰ってきて色々サロンでの出来事を話してくれたが、働くモチベーションを感じられる職場体験だったから満足して帰ってきました。

(学校側)：就職してからが人生長いので、学校選び以上に就職先選びは大事だと思います。就職に対する姿勢が学生募集にもつながっていきます。高校生の専門学校を選ぶ基準として就職は上位にきますから。専門学校は本人も高校側も関心は高い。少子高齢化でどこでもよければサロンはいくらでもあるが、学校側の姿勢がインターンやその後の就職活動については、人生にも大きな影響を与えていると思います。

#### ○川野公稔 委員

評価項目(7)学生募集に関し、弊社の新規顧客はご紹介が基本になります。募集体制はどのような形で行っていますか？学校会計も学生数に依存度が高く収入確保からもどのようにお考えですか？

(学校側)：近藤委員のご質問の際もお話ししましたが、学校訪問もやり方を変えて実施したりしています。入学者アンケートより、当校を知るきっかけのトップは「お知り

合いから」でそこに向けた取り組みができているとは言えない。また昨年の第三者委員会での指摘ですが、我々の取り組みに対し、「広報していない」ですねと言われました。所詮、当校が広報と言っていることは、第三者から見るとそれは「広報ではない」ということがわかりました。教務の充実云々は当然としても、広報の抜本的な見直しも必要だと思っております。

以上  
記録：山口

実施日：平成 30 年 12 月 10 日（月）10：00～12：00

場 所：学校法人 愛知理容学園 アリアーレビューティール専門学校 2 階 A 教室

出席者：委員 池山英一（アリアーレビューティール専門学校 校長）  
中川信子（名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院 校長）  
山田資喜（愛知県美容業生活衛生同業組合 常務理事）  
廣瀬麻美（理容ヒロセ・平成 26 年度卒業生）  
藤原さやか（平成 28 年度卒業生）  
市川千恵子（PTA 役員）  
尾関之一（ベリーバイヘアースポットオゼキ経営）

順不同

欠席者：委員 福澤寿和（愛知県理容生活衛生同業組合 理事長）  
川野公稔（指吸会計センター(株) 名古屋支店 支店長）  
平成 30 年 12 月 18 日（火）にアリアーレビューティール専門学校にて  
意見等を聴取する。  
近藤文峰（第一学院高等学校 教諭）  
平成 30 年 12 月 18 日（火）にアリアーレビューティール専門学校にて  
意見等を聴取する。

オブザーバー

森山郁子（アリアーレビューティール専門学校 事務主任）  
山口 孝（アリアーレビューティール専門学校 広報主任）  
福本稔巳（アリアーレビューティール専門学校 教務主任）

委員会次第

- (1) 開会
- (2) 学校長挨拶
- (3) 平成 30 年度冬期 学園広報誌の説明
- (4) 高等教育無償化に関する意見聴取
- (5) 卒業生管理に関する意見聴取
- (6) 前回会議からのフィードバック
- (7) その他意見交換  
各評価委員から次期広報誌等に記載されている直近の学園活動に対する質疑  
(詳細は後記のとおり)
- (8) 閉会

終わりに校長から各委員へ貴重なご意見をいただいたことへのお礼があり、また本会議において2年間の委員の任期が満了になることの報告がある。なお改選に際し再任されることがある旨の説明及びご理解・ご協力を賜る。

#### 質疑・討議及び意見交換について

次第に関する質疑を含め、当校に対しての要望、意見等を含め、次のような貴重なご意見を頂いた。

[各評価委員からの質疑・ご意見等及び当校からの回答] (順不同)

#### ○山田資喜 委員

学園広報誌の中のインターンについてですが、実務実習制度のことについては初めて知りました。インターンは中部美容専門学校でも行っていますが、中部卒の生徒でも入社したら1回やり直し(学生時のインターン研修を実際の就職先の方針等に改める)の状態であると思います。学生時のインターンは就職後の成果に表れているのかどうか。インターンもそうだが学校全体の授業時間数が中部美容は2200時間あり、それを「売り・強み」として学校広報をしているが、サロンが2200時間も求めているのかどうか検証しないといけないと思っています。卒業生管理の問題ですが、中部美容でも先般の理事会で議題となり現在精査方針について検討中です。卒業生管理から学生紹介にもつながると考えています。

(学校側)：インターンについてはこの職業実践専門課程の主旨である企業連携の最たるものとして捉えており、県内理美容学校において最大時間数を確保する予定です。学校側が希望するインターン教育の中身をもっとしっかりサロン様に伝え、また内容の精査は必要かと思っております。実際サロン様によってバラつきが生じております。山田先生の言う自校の「売り」が本当に売れるものなのかの不安、悩みは弊社でもまったく同じであり、どこに何人のニーズがあるのかまでマーケティングをしっかりとしないとタダ作っただけ・整備しただけ、作ること・やることだけが目的になって結果はついてこない。そこまでの時間と労力だけが無駄になってしまいます。卒業生管理も専門学校全体として言えることですが大学・短大に比べて友人・知人から学校を知ることが広報媒体から知るよりも比率が高い。特に弊校は入学生アンケートにおいて高いので来年の70周年記念を迎えるにあたり整備・土台作りに着手しております。

○廣瀬麻美 委員

インターンについてですが、在校時にめんどくさいという仲間もいましたが、行きたくない学生に対し、インターンの大切さを伝えてほしいと思います。

(学校側)：内にこもっている方が楽ですが、就職後の早期の離職率の低減等を考えると必要であると思います。離職率0%を目指す上ではアリアール方式の(実務教育)インターンについては今まで以上に充実を図っていきます。大切さについては十分に学生に落とし込みをしていきます。このインターン制度は管理理美容師がおり、また理美容師1人につき学生が2人までと厳格に決められています。

○藤原さやか 委員

学園新聞(案)を見て、卒業して2年しかたたないが、こんなに色々と学園行事等が改善されているのかと感心します。少子化の中で学生募集は苦心されていると思いますが、希望者全員を入学させているのですか？

(学校側)：アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)は明確にあるのですが、入学試験に対する姿勢・考え方が個々の面接官にはあると思うのですが、学園全体として持っているとはまでははっきり言えず、我々の欠けている部分であります。各々の面接官がそれぞれ直接的にせよ間接的にせよ「どんな理美容師になりた  
いのか」「なぜ理美容師を目指したんですか」の視点では質問をしていると思います。受験生の個性や能力、将来の目標等から「意欲、情熱と熱意」を評価し、多面的に適性を見極めようとするなら、学校職員だけでなく面接メンバーもサロンオーナー様にも入っていただけるような多様性を持ちたいと思います。

○尾関之一 委員

通信生を現在4名アリアールに送っていますが、週4日制を進める中で月曜日が昼間生選択授業で通信生スクーリングが主たる内容となると、サロン営業中(休みは火曜日中心)に従業員(生徒)が職場を抜けられると困ります。国家試験(通信)の高い合格率ですが、お世話になっているウチの従業員(生徒)を見てみると、小数点や分数等小学校の算数程度がわからず仕事を教えていく上で不安になる。学校の先生はよく国家試験合格まで持っていけるなと感心します。インターンですが営業ができる実務実習制度については知りませんでし

た。ただ実際にお客様に入らせることができるのか、特殊なメニューを用意する必要があるのか、そこまでインターンで見てやらないとダメなのか、今の学生は優遇されすぎのような感じがします。

(学校側) : 通信スクーリングは全て月曜日になる訳ではありません。理容科と美容科の曜日を分けることがありますし、当然火曜日の日もあつたりします。サロン休日の第2・第3月曜日はスクーリング日になってくると思います。インターンも時代に即した形に変えていかないといけないのですが、旧試験・免許制度ではご存じのように1年学校+1年インターンで国家試験でした。旧来のインターンの充実を図りたく、ただ当時のインターンはそこに就職ありき为前提としてありました。今はインターン先と就職先は必ずしも一致せず、そこにサロン様には負担をおかけしている面があると思います。

○市川利恵子 委員

娘が2年生美容科でインターンの話は聞いていますが、本人曰く「内定が決まっても違うサロンにインターンに行きたい」と言っていました。親としては私が美容師ではないので、インターンの充実はありがたいと思います。

(学校側) : 内定決定後のインターン先に関しては、内定先限定にしています。相手方に対する信義則の面もありますので。そして前回ですと祝金と土曜でしたので繁忙の雰囲気も見てくるよう伝えていきます。美容科学生は特にご実家がサロンの比率が低いのでインターンの充実や方針についてご理解いただけるよう努力しております。

○中川信子 委員

インターンについてですが、競合校において有償でインターンを行っており、現在自校でもインターンのあり方については非常にアンテナを張っているとこです。年3回(卒業までに計6回)行かれているということですが、3回とも行き先がかわるのですか?サロン側はぜひ来てくださいという感覚なのですか?様々な工夫改善及び改善計画の中で来年の学生募集状況はどうですか?貴校の少人数制をもっと打ち出されるといいと思いますが、どのようにお考えですか?(先ほどお話しができました)卒業生の管理ですが自校ではなかなか更新ができていません。

(学校側) : インターン中の実態が労働基準法上の「労働者」にあたる場合は当然有償になると思います。先般、弊社でもサロン経営者の集まりである後援会様に

有償化の打診をしてみました。他校の例を上げて提案しましたが、有償である以上はお互いがきちんとした形で「行く」「迎える」にしないと成り立たない。一度発議をしたことはよかったと思っています。現状はまだまだサロンによって意識がバラバラで学生の出来もバラバラ。お客さまの髪为天頂部を切った学生が入れば、ドブ掃除ばかりの者もありました。実務実習は「そこのサロンの技術者が先生になりますよ。」ということなので、学校・サロン側両方の意識改革がまだ必要と思っています。今年度のインターン先は全部ちがうところでした。少人数制を打ち出すご意見ですが、少人数制だから退学者が少ないとか合格率が高い等前向きな裏付けがないといけないと思っています。募集の本質は学校を表面的によく見せる事ではなく、「募集」と「教育」が一体となり、進学検討者に自校の「価値」を正しく伝えることこそが大切だと思いますので、実際にやっている、できていることを中心に載せています。来年4月の入学予定者は現在、理容科13名前後、美容科10名前後です。

欠席者後日ご意見等

○川野公稔 委員

インターンで学生に営業技術をさせるならお客さまに対する保険・保障体制をきちんとしてから行ったらどうか。インターン先に行かせる前に教職員だけでなくサロンオーナーにも技術チェックをしてもらうようにした方がよいのではないかと。消費税増税に際し、学費等値上げを検討する場合は建物（施設・設備）も含め広告であり学生に還元する視点で進めるとよいのではないかと思います。

○近藤文峰 委員

高等教育無償化についてですが、通信制高校は母子家庭が多く、対象校であるかどうかの判断基準になるかもしれません。自校が現在提携している犬山の動物学校や名古屋鶴舞の美容学校は第一学院の通学生よりも通信主体のスクーリング生でメインが専門学校で従たるが通信高校だと思います。併設の渡辺高等学院（芸能コース）はオーディションで特待生（学費免除）で入学し中退した場合、正規の学費を納めてから退学を認める制度です。（払ってやめる。）新しい大学入試制度に向けた学力3要素（eポートフォリオ）の話は少しずつ校内でも議題になっています。

以上

記録：山口